

高校I年 日本史A 2単位

使用教材	『高校日本史A』（実教出版）、教科書傍用問題集 図説・資料集 『新詳日本史』（浜島書店）
試験・評価・課題等	○レギュラークラス・・・提出物（2～3割）、定期試験 ○アドバンストクラス・・・提出物（2～3割）、定期試験 ※3学期は期末試験＋プレゼン評価で評価

学習計画

期間	学習項目	指導上のポイント	指導上のポイント(アドバンストクラス)	
一学期	中間	<ul style="list-style-type: none"> ・ペリーの来航と開国 ・明治維新 ・自由民権運動 	<ul style="list-style-type: none"> ・日米和親条約締結に始まる諸条約の内容、諸外国との貿易開始による日本経済・社会に与えた影響、開国の政治への影響（公武合体・尊王攘夷）を確認する（薩長同盟にも触れる）。 ・戊辰戦争の過程、版籍奉還・廃藩置県など明治政府の中央集権体制政策、四民平等と徴兵制のしくみ、教育制度・宗教界の動きを通じて文明開化を理解する。 ・民撰議院設立建白書に始まる自由民権運動発生期の動きと政府の対応、明治十四年の政変から国会開設まで、松方財政と民権運動の激化事件を理解する。 	ペリーの来航と開国から日清戦争まで ※指導上のポイントはレギュラークラスを参照
	期末	<ul style="list-style-type: none"> ・大日本帝国憲法 ・条約改正 ・日清戦争 	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法の制定過程、憲法の内容と日本国憲法との比較、制限選挙と第一回衆議院議員選挙、日清戦争までの初期議会の動きを理解する。 ・安政の五カ国条約の復習、条約改正の必要性、条約改正担当者個々の条約改正交渉内容を国際情勢の変化とともに理解する。※蝦夷地と琉球を含む。 ・日清戦争の原因と目的、戦争の様子と結果、下関条約の内容と三国干渉を理解する。 	日露戦争から昭和恐慌と満州事件まで ※指導上のポイントはレギュラークラスを参照
二学期	中間	<ul style="list-style-type: none"> ・日露戦争 ・第一次世界大戦 ・戦後恐慌と関東大震災 ・第一次護憲運動と普通選挙 	<ul style="list-style-type: none"> ・日露戦争の背景と日英同盟、国内の主戦、反戦、非戦の動き、戦後の動きを日韓併合、満州、欧米との関係を通じて理解する。 ・大戦参戦の目的と日本の中国政策、ヴェルサイユ体制とワシントン体制、ロシア革命、シベリア出兵、米騒動について理解する（日本国内の社会主義の動きと政府の対応含）。 ・大戦景気、戦後恐慌の影響、関東大震災の被害と経済に与えた影響を理解する（震災恐慌・震災手形など）。 ・第一次護憲運動、護憲三派内閣と普通選挙制度、治安維持法の内容と影響について理解する。 	二・二六事件から国際復帰まで（沖縄返還を含め） ※指導上のポイントはレギュラークラスを参照

	期末	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和初期の経済と外交 ・昭和恐慌と満州事変 ・二・二六事件 	<ul style="list-style-type: none"> ・金融恐慌の原因と政府の対応、田中義一内閣の対中国強硬外交（北伐を含む）を理解する。 ・張作霖爆殺事件の背景と田中内閣の総辞職について理解する。 ・金解禁と昭和恐慌、高橋財政での金輸出再禁止、満州事変の背景と政府の対応、軍部の動きを理解する。リットン報告書と国際連盟脱退とその影響について理解する。 ・主なテロとクーデター（天皇機関説問題を含む）、陸軍内部の皇道派・統制派の対立、二・二六事件についてその影響も含めて理解する 	
三学期	期末	<ul style="list-style-type: none"> ・十五年戦争 ・敗戦と占領 	<ul style="list-style-type: none"> ・十五年戦争の意味、盧溝橋事件に始まる日中戦争、アジア太平洋戦争を理解する。 ・戦中の国民生活について理解する。 ・ポツダム宣言と占領の仕組み、戦後の改革と日本国憲法、敗戦直後の国民生活（食料難等）、東西冷戦構造と占領政策の転換、サンフランシスコ平和条約の内容と締結までの国内外の動き、日米安全保障条約の内容とその影響について理解する。 	<p>与えられた課題に対するプレゼン。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三学期評価は、定期試験（レギュラークラスと同問題）とプレゼン評価を総合して行う。聞いている生徒もそれぞれのプレゼンの評価を行う。 ・1時間で2組ずつプレゼンを行い、残りの時間はセンター試験近現代分野の演習を行う。